

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2023 市民／学生応募用紙

<b>自治体提示の地域課題名</b> (注1)	No.	<b>自治体提示の地域課題名</b>	<b>自治体名</b>
	- (事務局用)	情報弱者に対して助ける	東淀川区
<b>チームがつけたアイデア名 (公開)</b> (注2)	高齢者を最先端に。		

(注1) 地域課題名は、COG2023 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

### 1. 応募者情報 下の欄のうち赤字部分は削除して該当する番号を記入のこと

<b>チーム名 (公開)</b>	大阪成蹊大学 公共政策コース科		
<b>チーム属性 (公開)</b>	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	3	
<b>メンバー数 (公開)</b>	7 名		
<b>代表者 (公開)</b>	富田恵太郎		

**【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。**

#### ＜応募内容の公開＞

1. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
2. 公開条件について：  
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。  
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません)
4. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

#### ＜知的所有権等の取扱い＞

5. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
6. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

#### ＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

**アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認** **確認後 OK なら右に○印を記入➡○**

## 2. アイデアの説明（公開）

### (1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて説明の途中に図表を入れていただいて結構です。

### (1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。**2ページ以内**でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題のポイント>はこれです！をごく短く以下に書いてください

<解決したい課題のポイント>

情報弱者を救いたい！

<以上の課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いてください> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が原点です>

<提案するアイデアの内容>

①何をするアイデアで：情報弱者（高齢者、外国人）に対して、情報やサービスの提供をするためのプラットフォームを作成します。このプラットフォームでは、日常生活に関する情報（公共交通機関の運行状況、地域のイベント情報、必要な手続きや申請書の作成方法など）や必要なサービス（通訳や翻訳サービス、法律相談など）美味しい食べのやおすすめ観光地などが提供されるようにします。

②誰が：地域の自治体や NGO、ボランティア団体などが、情報弱者支援プラットフォームを開発・運営します。また、地域の専門家（言語学者、法律家など）も参加し、必要なサービスを提供します。

③いつ：情報弱者支援プラットフォームは常時利用できるようにし、24 時間 365 日利用可能とします。情報弱者が困った時にいつでも支援を受けることができます。

④どこで：情報弱者支援プラットフォームはオンライン上で提供されます。誰もがインターネットに接続できる場所で利用することができます。

⑤どのようにする：利用の啓発情報弱者への支援を必要とする人々に対して、プラットフォームの存在と利用方法について啓発活動を行います。広報活動や地域のイベントへの参加などを通じて、情報弱者に対する支援を広く知らせます。

<アイデアが具体的に実行される場面>

高齢者や外国人に対して、公共サービスの情報を提供することで、皆がスムーズに公共交通機関を利用したり、必要な手続きを行ったりすることができます。これにより、公共サービスの利用者全体の利便性や効率が向上し、地域全体の福祉が向上します。

## 2. アイデアの説明（公開）

## (2) アイデアの理由（公開）

### (2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかの理由を上記のデータを示しつつわかりやすく書いていきます>

アイデアを提案する理由。

情報弱者を救うために、このアイデアを提案する理由はいくつかあります。

まず第一に、高齢者や外国人などの情報弱者は、日常生活において必要な情報やサービスを得ることが難しいという問題があります。9885 人の高齢者に聞いた、スマホを使用している理由で 1 番多かった理由として挙げられたのは約 5900 人はニュース、ニュースキュレーション

次に天気が多いです。

このデータの通り高齢者などがスマホを利用している一番の理由としては情報を得ることです。ですが本当にそのサイトが正しいとは限りません。そこで彼らが求めている情報を提供するプラットフォームを作成することで、彼らが自立した生活を送ることができるよう支援することができます。

また、地域の自治体や NGO、ボランティア団体などが協力してこのプラットフォームを開発・運営することで、地域コミュニティ全体で情報弱者を支えることが可能となります。地域の専門家も参加することで、必要なサービス（通訳や翻訳サービス、法律相談など）を提供することができます。

さらに、このプラットフォームはオンライン上で提供されるため、誰もがインターネットに接続できる場所で利用することができます。これにより、情報弱者がいつでもどこでも支援を受けることができるようになります。

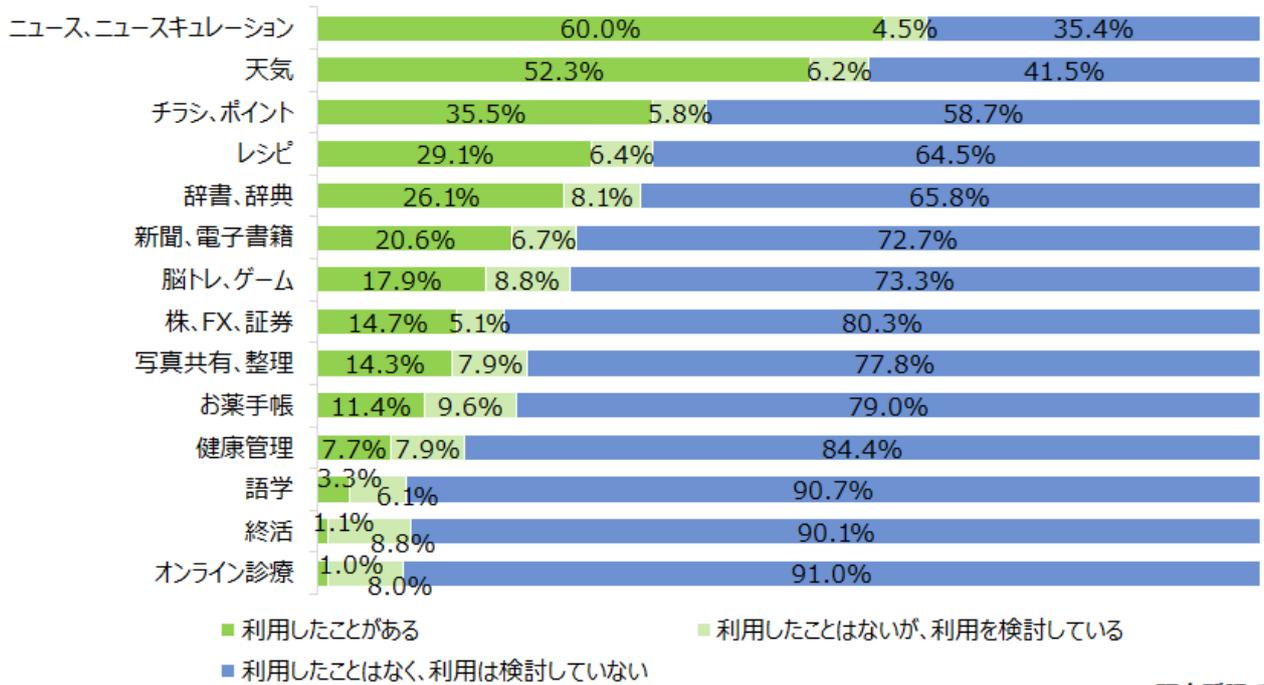
最後に、利用者からのフィードバックを収集し、プラットフォームの改善や必要な情報やサービスの追加を行うことで、より利便性の高いサービスを提供することができます。利用者の声を取り入れることで、高齢者などのニーズに合わせた支援を行うことができるからです。

以上の理由から、情報弱者を救うためにこのアイデアを提案しているのです。プラットフォームを通じて情報弱者が必要な情報やサービスを手に入れることができれば、彼らの生活の質が向上し、社会参加を促進することができます。

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

● スマートフォンで利用しているサービス ※ジャンル別（n=9,885）



## 2. アイデアの説明（公開）

### (2) アイデアの理由（公開）

参考：MMD 研究所（2021 年のシニアのスマートフォン利用者は 84.7%2020 年と比べスマートフォン利用者は 7.7 ポイント増加）

[https://mmdlabo.jp/investigation/detail\\_1981.html](https://mmdlabo.jp/investigation/detail_1981.html)

### (3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

<アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまず>

<以下のように分けて書いていきます>

1. 実現する主体
2. 実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

#### 主体

地域の自治体、NGO、ボランティア団体

など。

#### 資源

1. 人材：言語学者、法律家、IT エンジニアなど、情報弱者支援に必要な専門知識を持つ人材が必要です。彼らは情報の翻訳や解説、法律相談などを担当します。
2. 技術：情報弱者支援プラットフォームの開発には、ウェブ開発やアプリ開発などの技術が必要です。これには専門のプログラマーやデザイナーが必要です。
3. 予算：プラットフォームの開発や運営には予算が必要です。これには開発コスト、広告宣伝費、運営費などが含まれます。予算の調達には、地域の予算配分や地域をよくするためにことうことをしたいという情報を地域住民の方たちに説明し寄付してもらいその寄付金で補うなどの方法が考えられます。

#### 実現に至る時間軸を含むプロセス

1. プロジェクトの計画と準備：主体組織が目標やスケジュール、予算などをまとめ、プロジェクトの計画を立てます。また、必要な人材や技術の確保も行います。
2. プラットフォームの開発：プログラマーやデザイナーがプラットフォームを開発します。主体の自治体、NGO、ボランティア団体などが SNS 上で運営しているプラットフォームを代行で作成してくれる方達に作成依頼をします。これにはユーザーインターフェースの設計、情報の収集と整理、必要な機能の実装などが含まれます。
3. 情報収集と提供：専門家やボランティアが情報を収集し、プラットフォーム上で提供します。これには翻訳や解説、相談窓口の運営などが含まれます。
4. プラットフォームの普及と運営：広告や宣伝を通じてプラットフォームの普及を図ります。また、ユーザーからのフィードバックを反映させながら、運営を継続していきます。